

キンメダイの近年の漁獲動向

2014 年の静岡県のキンメダイ漁獲量は約 2,100 トンで、1984 年のピーク時の約 25%にまで減少しました。近年、キンメダイの資源水準は低位で、その動向は減少傾向にあるとされ、漁業関係者からも資源が少なくなったとの声をよく聞きます。そこで、近年の漁獲動向として、県内のキンメダイ漁獲量の約 95%を占める伊東、稲取、下田の市場集計をもとに、2000 年から 2014 年までの 15 年間の状況を報告します。

1 伊東（立縄釣り漁業）

2009 年までの漁獲量は、2002 年および 2004 年を除き 75～100 トンで推移しました。2010 年以降は 45～70 トンで推移し、年平均漁獲量は 61.4 トンで 2009 年以前の年平均漁獲量（79.5 トン）の 77%でした。

CPUE（1 日 1 隻あたりの漁獲量）は長期的に減少傾向がみられます。2000 年、2001 年は 40kg/隻・日以上でしたが、2002 年～2005 年は 20～30kg/隻・日台となりました。2006 年は 44kg/隻・日と増加しましたが、2007 年～2009 年には 40kg/隻・日を下回り、2010 年以降は 30kg/隻・日以下となりました。

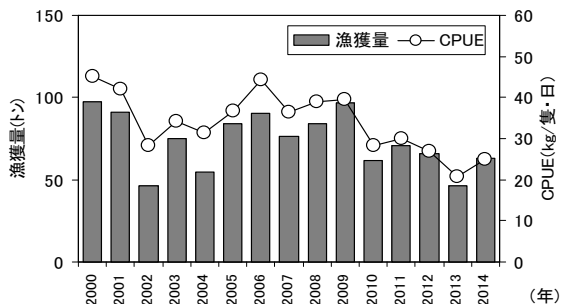


図1 漁獲量と CPUE の経年変化(伊東、CPUE は 1 日 1 隻あたりの漁獲量)

2 稲取(立縄釣り漁業)

漁獲量は、2000 年、2001 年では 200 トンを上回っていましたが、それ以降は増減をともないながら減少傾向がみられます。2004 年には海況の影響もあり 116 トンと減少しましたが、2005 年には

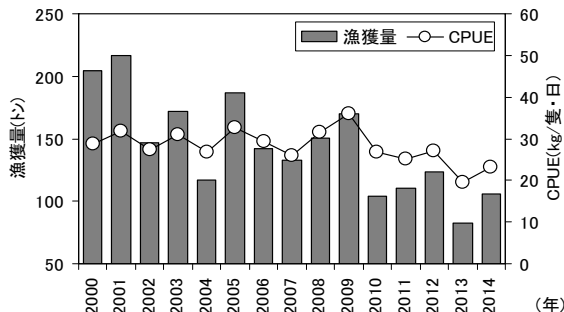


図2 漁獲量と CPUE の経年変化(稲取、CPUE は 1 日 1 隻あたりの漁獲量)

187 トンにまで増加するなど、2009 年まで 110～190 トンの間で推移しました。2010 年以降も増減を繰り返していますが、最高漁獲量が 2012 年の 123 トンと、2009 年以前で最低だった 2004 年をわずかに 20 トン上回る漁獲量でした。さらに、2013 年は 82 トンと 1980 年以降でも最低となりました。2010 年以降の年平均漁獲量は 105.2 トンで、2009 年以前の年平均漁獲量 (163.8 トン) の 64% でした。

CPUE は 2009 年までは 30kg/隻・日 前後で推移していましたが、2010 年以降は 30kg/隻・日 以下となり、2013 年には 20kg/隻・日と 1980 年以降で最低となりました。CPUE の年平均値は 2009 年までは 30kg/隻・日でしたが、2010 年以降は 24kg/隻・日でした。

3 下田（底立てはえ縄漁業）

漁獲量は、2000 年には 3,300 トンでしたが、海況の影響を受けた 2003 年には 1,700 トンまで減少しました。その後 2005 年から 2010 年にかけては 2,100 トン前後で概ね横ばいで推移しましたが、2011 年以降は 1,500 トン前後となりました。

CPUE (1 航海 1 隻あたりの漁獲量) は 2009 年までは、海況の影響を受けた 2002～2004 年を除き、5 トン/隻・航海 前後で推移していましたが、2010 年には 4 トン/隻・航海、2011 年以降は 4 トン/隻・航海を下回りました。

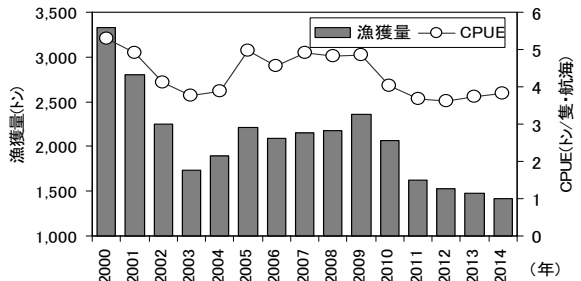


図3 漁獲量とCPUEの経年変化(下田、CPUEは1航海1隻あたりの漁獲量)

4 全体を通して

15年前に比べ漁獲量、CPUEとも減少しています。その傾向は2010年以降より顕著になっています。

2002～2004年は、長期間、黒潮がN型流路（八丈島よりも北の海域を北東方向へ直進）で経過し、これが漁獲低下の要因の一つと考えられました。この後は、2004年8月以降、黒潮はA型流路（遠州灘沖で大蛇行し伊豆諸島の西を北上）に移行し、2005年にはCPUEに回復傾向がみられました。2010年、2011年も黒潮の接近が漁獲低下の一要因と考えられましたが、その後黒潮流路が変化したにもかかわらず2012年以降のCPUEは2009年の水準まで回復していません。ここ数年でさらに資源が減少していることと判断されます。（萩原快次）